

ひよくれんり 2

Chizuru & Masamune

なかゆんきなこ

Kinako Nakayun



エタニティ文庫

目次

ひよくれんり 2

番外編 奥様の弟

書き下ろし番外編 眠れない夜には

5

283

313

ひよくれんり2

プロローグ 〈奥様の秘密〉

夫婦って、お互いのことを全て理解し合っているのが当たり前だと思っていた。
これまでどんな人生を歩んできたのか、とか。

これが好きな人生を歩んでいきたいのか、とか。

何が好きで何が嫌いなのか、とか。

何が得意で何が得意なのか、とか。

そんなことを一から十まで、全部知っているんだって。

幼い頃に、「大人になったら結婚する」ってことがごく当たり前だと思っていたのと同じように。

だけど実際に大人になって。結婚、してみて。

お互いを全部理解し合うのは簡単じゃないんだって、知った。

私、みねぢちづる峰岸千鶴改め、かしわぎ柏木千鶴は去年の春にお見合いで出会った高校教師、まきほん柏木正宗さ

んと結婚しました。

出会ったのが五月。そこから交際をスタートし、プロポーズされたのが八月。実際に結婚したのは、十一月のこと。(挙式の日に婚姻届を提出しました)

このまま一生結婚もせず自分達に寄生して生きていくんじゃ……なんて、両親に心配されていた私が(失礼な！ 薄給だったけど、働いてたし。一応家に生活費は入れていたよ)、まさかのスピード婚。周りもびっくりしていますが、本人が一番びっくりしていますよ……

旦那様の正宗さんは、私には本当にもったいないくらいのお方です。性格は優しくして穏やか、容姿は長身イケメン、かつ眼鏡男子！ (ここ重要)

私立高校の教師として忙しい日々を送っていらっしやる正宗さんを、まだまだ家事に慣れないながらも、妻として支える日々が楽しくて、嬉しくて。……幸せ、で。

こんな風に、一人の男性をあ……愛する(恥ずかしい！)ようになるなんて、思ってもみなかった。

こんな風に、一人の男性にあ……愛される(恥ずかしい!!)日が来るなんて、思ってもみなかった。

だって、私は……だから。

出会いから結婚までが短かった私達。

新婚生活は慣れないことや大変なことも多いけど、何気ない日常に幸せを感じる。たとえば少しだけ肌寒い静かな夜に、二人で温かいお茶を飲んでる時にはっと目が合つて、言葉もなく微笑み合う、とか。

たとえば天気の良い日曜日に縁側に出て、まったりと日向ぼっこ、とか。でもふとした拍子に、湧き起こる罪悪感。

私はこの素敵な旦那様に……いや、素敵すぎるからこそ言えない秘密がある。

柏木千鶴、二十九歳。専業主婦。

身長は百五十二センチ。体重は……：独身時代よりちよつと増えました。イヤアア!!

髪型はここ数年ずつと同じ。肩上課らしい。色素が薄めなのは、母親譲り。

そして私……オタク、なんです。

漫画、ゲーム、アニメが大好き。というか大好物。

正宗さんは私がオタクだつてこと、たぶん気付いてない……はず。

二人で暮らしている家（一戸建ての日本家屋。正宗さんが亡きお祖父様から譲り受けたもの）には、ありがたいことに寝室とは別に私の一人部屋がある。

そこに、実家から厳選して持ってきた漫画やら小説やらゲームソフトやらCDやらDVDやらを置いてあるけれど……

「正宗さんは私のことを「漫画も含めた読書好きな人」で「ゲームもやる人」くらいにしか思っていないはず。正宗さんはそういうオタクコンテンツにあまり興味がないし、私もできる限り隠しているし。

……だが問題はそれだけじゃない。ただのオタクなら、まだいい。

私は、ですね。

あの、いわゆる……『腐女子』つてやつなんです。

年齢や既婚者という事実を考えたら、ひよつとすると『貴腐人』にランクアップしているのかもしれませんが、諸先輩方にはまだまだ及びません！ ということで、あえて『腐女子』と自称させていただきます。

つまり……ですね。

男性と男性の恋愛が、すなわちホモが大好きで!!

二次元はもとより、三次元でも男性が二人揃っていればいついっいつい妄想しちゃうような、腐った脳みその持ち主なんだよおおおおおおおおおお!!

い、言えない!! こんなこと。

あろうことか、旦那様とそのご友人でも妄想しちゃってるなんて、もつと言えない!! 言ったら絶対ドン引かれるよおおお!!

最悪離婚ですよ、離婚!!

だって……普通に女の人が好きなのからすれば、男と男でうっへ言ってる女とか、キモイでしょ!!

わかってる。わかってるんだよそんなことあ……

自分がどれだけ「アイタタターツ!!」なかってことくらい!

だから私は、自分が腐女子であることを旦那様に隠している。

え? じゃあ、腐女子やめればいいんじゃないのかって?

そんな簡単に卒業できるのなら、苦労しない!!

今や私にとって腐女子であるということは、アイデンティティそのものなんだ!!

だから私は、結婚する時……

腐女子であることはやめられないけれど、正宗さんとずっと一緒にいたいから……一

生涯この秘密を隠し続けようと、貧相な胸に誓ったのだ。

花より団子だんごよりやっぱり……

正宗さんと結婚して、初めて迎えた春。

二人で見上げた家の庭の桜は、もう散ってしまったにもかかわらず……

「花見に行きませんか?」

と、正宗さんに誘われたのは金曜日の夜。

もう四月も末なのに? と思って、私はつい「え?」と首を傾げてしまった。

「ちょっと遠出になりますか、遅咲きの桜の名所があるんです。日曜日、ドライブがてら、どうですか?」

ドライブ! 正宗さんとドライブなんて初めてだ!!

正宗さんは運転免許を持ってるけど、車は持っていないから。(かくいう私は、運転免許すら持っていない)

もし車を買ったとしたら、子どもが生まれてからですかね……って、二人で話したことはあるんだけどね。

やっぱりこう、子どもができたなら色々な所に連れてってあげたいなあ、と。

実は、ワゴン車のCMとかで見る家族像に憧れていたりします。おっと話が逸れた。

というわけで、今回はレンタカーを借りて行きましようってことになった。もちろん二つ返事で、「行きたいです！」って言いましたよ。

楽しみだなあ。正宗さんとドライブ。

それに、遅咲きの桜かあ。桜はもう来年にならないと見れないなって思ってたから、またお花見できるのは嬉しい。

そして、土曜日に正宗さんがレンタカーを借りて帰って来た。

私は遠足前の小学生みたいに、明日楽しみだなあってわっくわくしてたら……

あ、あんまり眠れませんでしたっ！ 子どもか!!

睡眠時間が短かろうが、容赦なく朝はやつて来る。

午前五時。スマホのアラームが鳴る。私は正宗さんを起こしてしまわないよう、素早い動作で枕元に手を伸ばし、アラームを止めた。

ううう……結局二、三時間くらいしか寝てないよう……

眠い……目がしばしばするう……

だがしかし、私はやらねばならんだ!!

もそもそと起き上がり、服を着替えて顔を洗って歯磨きして、最後にエプロンをつける。

そう！ これからお弁当を作るのです!!

……と言っても、凝ったものは作れないんだけどね。

「ええと……」

まずは、昨日の夜にセットしておいた炊飯ジャーを確認!

うん。炊けてる炊けてる。ジャーの中にはたつぷりの白いご飯。

今日はこのご飯に五目寿司の素を混ぜて、それを油揚げに詰めて、お稲荷さんにするのだ!

冷蔵庫から油揚げを取り出して、熱湯で油抜き。そして半分に切って、袋状にする。

次に小鍋に醤油、みりん、砂糖、水を入れて、油揚げを煮る。

うーん。あまじょっぱい、良いにおい! この匂いを嗅ぐと、思わずよだれが……美味しくできるといいなあ。

おっと。油揚げを煮ている間に、他のおかずも作らないと!

私はもう一つのコンロに油の入った鍋を掛けた。

そして冷蔵庫から、タレに漬けておいた鶏肉を取り出す。

それに唐揚げ用の粉をまぶして揚げれば、鶏の唐揚げの完成！

他にも、甘い卵焼き、魚肉ソーセージ入りのポテトサラダ、肉巻きアスパラを作って、お重に詰め込んでいく。彩りにプチトマトも入れてみた。

野菜が少ないかな？　と違って、茹でたプロッコリーも追加！　あとはおかずの下にサニーレタスを敷いて、オッケー！

うん。我ながら、彩り、量共に上出来じゃないの!!（あ、味も大丈夫なはず）

「ふうー」

二段のお重箱（一段目がぎつしり詰まった稲荷寿司。二段目がおかず）を完成させるのに一時間近くかかったけど、朝から一仕事やりきったぜ!!

あー、朝日が眩しい……。でも朝ごはんも作らなきゃ。

私はしばしばする目を擦って、朝食作りに取りかかる。

ちなみにメニューは、車の中でも食べられるように、ロールサンドイッチと水筒に入れた熱々のコーヒー。これで準備はオッケイ!!

* * *

職場で遅咲きの桜の話聞いた瞬間、千鶴さんの顔が真っ先に浮かんだ。

家の庭に咲く桜を縁側で見上げていた時、彼女は本当に嬉しそうな顔をしていた。

そんな千鶴さんの表情を思い出して、もう一度見せてやりたいと思ったのだ。

その日のうちに千鶴さんに話してレンタカーを手配し、日曜日に二人で行くことになった。

千鶴さんは俺より一時間も早く起きて、お弁当を作ってくれたらしい。大きな重箱の入ったバッグを誇らしげに掲げる彼女に、つい口元が緩む。昼が楽しんだ。

朝食を食べる時間も惜しんで、早々と出発。

しかし千鶴さんが気を利かせて、運転中でも食べられるロールサンドイッチを作ってくれていた。

助手席で千鶴さんがラップを剥き、「はいどうぞ」と渡してくれるそれに、がぶりと齧りつく。具は定番のタマゴとハム。

それから赤信号で停車している間に、コップに注いだ温かいコーヒーも手渡してくれた。うん、美味しい。

しばらく街中を走り、高速に入る前にコンビニへ。

ドライブのお供にと、菓子や飲み物を買って込んだ。

高速に入ってしばらくして、トイレ休憩のためにサーブエリアに寄る。

俺は知らなかったが、そこは最近テレビでもよく取り上げられている話題の場所らし

い。千鶴さん曰く、近頃はサービスエリア目当てに高速に乗る人も多いのだそうだ。日曜日ということもあるだろうが、確かに賑わっていた。

「！」

千鶴さんの視線がソフトクリームの幟のまりに向けられる。

何も言わないが、じいっと見ているということは食べたいんだよな……？

「千鶴さん、せっかくですから買って行きましょうか」

「えっ」

「美味しそうですよ？」

「じゃ、じゃあ……」

二つ（つまり俺の分も）買いましょうか？ と千鶴さん。

だが俺は別に……ということ、一つだけ買った。

店員からソフトクリームを受け取った千鶴さんは、ぱあっと目を輝かせる。

そして一口、ソフトクリームの先っぽを食はみ、

「んん！ うまー！」

と、心底美味しそうに破顔した。

そんな表情を見ると、俺も食べたくなるな。

「千鶴さん、一口くれませんか？」

「いいですよー！ って、ええっ!？」

千鶴さんが手に持ったままのソフトクリームに、横からぱくりと口を付ける。

……ん、意外に甘すぎなくて美味うまいな。

「美味しいですね」

「はわわわわ」

顔を真っ赤にする彼女に、俺はつついっほほえい微笑んだ。

* * *

サービスエリアでソフトクリームを横からぱくり！ された時は心臓が飛び出るかと思った……。(だつて顔！ 近い!!)

そんなこんなでドキドキしちゃった休憩のあと、再び高速道路を走る私達。

それにしても……

「あと三十分くらいで着きますよ」

「は、はいっ」

運転する正宗さん、ちょ……ちょうカッコイインですけどおおおおお!!

ハンドルを握って、真剣な顔で前を見つめてるのがまた……!!

それに、サービスエリアで駐車する時、後ろを確認しながら片手でハンドルをくるくる回す姿がすつごく恰好良くて、思わず鼻を押さえちゃったよ私……!!（鼻血対策）

正宗さんの新たな魅力を発見いたしました。
そんなこんなで、窓からの風景をぼーっと見たり、運転する正宗さんをじーっと見ているうちに（ハ、ハアハアはしてないよ抑えてたよ、たぶん!!）、目的地へ到着しました。

そこは、私達の住む街から高速を使って片道二時間半のところにある高原。
牧場もあるらしいその高原の一角に、遅咲きの八重桜で有名な森林公園があるそうだ。
駐車場に車を停めて、お弁当の入ったバッグを手に二人で歩く。

日曜日ということもあって、その高原にはたくさん家族連れがいた。

ボール遊びをしている子ども達や、遊具で遊んでいる子ども達。そしてそれを見守る大人達。

あ、犬を連れている人もたくさんいる。frisbeeを見事なジャンプでキャッチした犬がいて、思わず拍手しちゃった。すごいなあ。しかも可愛い！

「んー！」

天気も良いし、今日は絶好のレジャー日和だよねえ。

高原の空気が、気持ち良いー！

そして、目的の……

「わあ……!!」

八重桜!!

私は、今が盛りと咲き誇る八重桜の並木に感嘆かんだんの声を上げた。
すごい……!! 本当に咲いてる!!

八重桜は他の桜より花びらが多い分、濃いピンク色に見える。

そのせいか、儂しないというより力強い。力強くて華やかな美しさを感じる。

それが今、爽やかな風に悠々ゆうゆうと揺れている。

なんて綺麗なの……!!

* * *

「気に入ってくれましたか？」

「はい！」

高原に咲く、八重桜の並木。

どうやら気に入ってもらえたらしい。

ここへ連れてきて良かったと、桜を見上げる千鶴さんの顔を見て思った。

確かに見事な桜だ。
華やかで、力強い。
そう眩げば、隣で千鶴さんが「同じこと思いました」と笑った。
以心伝心、ですな。

しばらく桜に見入りながら、ゆっくりと公園を歩く。
せっかく来たのだからと、牧場も覗いてみることにした。

広い敷地の柵の中には、放牧されている牛や羊がいて、小さな男の子が両親と一緒に、
恐る恐るといった感じで羊に触れていた。

俺達も柵の近くまで寄って、羊を間近に見る。

まだ刈られていない毛をモコモコと纏った羊に、千鶴さんは……

「もこもこは可愛いけど……目が怖いです」

と言って、怖がる様子を見せた。

てっきり「可愛い！」と飛びつくかと思ったから、ちょっと意外だった。

目が怖い？ ……言われてみれば、羊の目は瞳孔が横に広くて、それが少し怖いかも
しれない。

「……ん？」

視界の端に、足元の牧草をむしって羊に与えている男の子の姿が見えた。

……面白そうだ。

俺も真似して、足元の牧草をむしる。

そうして羊に差し出すと、もしっと草に齧りついてきた。

「おお！」

傍らの千鶴さんが歓声を上げる。

そして彼女も同じように、牧草をむしって羊の前に差し出したのだが……

羊は千鶴さんの牧草には目もくれず、ぶいっとそっぽを向いて別の場所へ行っ
てしまった。

「なんで!？」

「……フッ」

ついつい噴き出してしまった俺に、千鶴さんは「ひどいです、正宗さん！」と怒る。

ああ、すいません。でも、千鶴さん……

「ぶいって！」

あまりにも見事なフラれっぷり！

駄目だ。ツボに入った。

俺は必死に笑いを堪える。

「あの羊めえええ……!」

たぶん、さつき「目が怖い」って言ってたの、羊にも聞こえていたんですよ。

* * *

もー！ 羊にはフラれるし（あの羊め！ 正宗さんの手ずからの牧草の方が美味しい、お前なんかの牧草はいらねえよってことか！ くやしいー）、牧場のソフトクリームの方が美味しそうだったし（あああサービスエリアじゃなくてこっちで食べればよかった！ 何せ目の前にいる牛さん達のミルクを使ってるんだよ？ 新鮮だよ？ 美味しいに決まってるよおおお！ でも一日二個は無理いいい！）散々だ。

でも、牧場楽しかったー！

動物物って見てるだけで癒されるよね。羊の他にウサギにも触れたし。

そんな風に、ゆっくりと高原を回ってから時計を見たら、針はお昼を指していた。

また桜並木の公園に戻って、芝生の上にシートを敷く。

桜を見ながらのお弁当タイム！ です。

恐る恐る開けたお重箱を見て、正宗さんは「すごいですね」って言ってくれた。

い、いやいや量と見栄えは頑張ったんですけど、正宗さんのお口に合うか心配です。

私はドキドキしながら持ってきた紙皿にお稲荷さんとおかずを取り分けて、正宗さん

に手渡す。

「ど、どうぞ……。召し上がれ……っ」

「はい。いただきます」

ま、不味くないかな？ 大丈夫……？

不安いっぱいの私の目の前で、正宗さんはぱくり、とお稲荷さんを口にすする。

「……………」

「……………」

なっ、なんか言ってる……！

「美味しいです」

「っ!!」

本当に!?

正宗さんは次に唐揚げをぱくりと口にしてお、微笑んでくれる。

よ、よかった。

わ、私も食べよう……。ん？

先に正宗さんに食べてもらってから自分も……って、今思うとまるで正宗さんに毒見させたみたいじゃないか!?

今日はいつともより暖かいし、作ってまだほんの数時間だけど実は傷んでいた、なんて

ことがあったら大変!

ううう……。私が先に食べるべきだった……。と思いつつ、ポテトサラダをぱくり。
う、うん。不味くはないな。でももうちょっと味濃い方が良かったかも……。?
お稲荷いなりさんは美味おいしいしい。うん。私、普通の酢飯のやつより具沢山のお稲荷さんの方が好きなんだよねえ。

それから鶏の唐揚げと、アスパラの肉巻きも食べてみる。

すっごい美味しい!……。ってほどじゃないけど、普通に食べられるレベルだ。

あとね、この美味しい空気がスパイスってことで! ひとつなんとか!

「……あ」

「えっ」

卵焼きを口にした正宗さんが、ふと声を上げた。

えっ、どうしたんですか? も、もしかして卵なごの殻入ってました!?

「……千鶴さん、お弁当付いてますよ」

「えっ!」

正宗さんは、ふっと柔らかく微笑ほほえんだかと思うと……

「っ!」

その手を私の顔に伸ばしてきた。

(ふぎやー!!)

そして口元に付いていたご飯粒を取ってくれて。

ば、ぱくりとおおおお!! それを、おっ、お食べに!!

ひぎゃああああああああああああああああああああああああああ!!

口元に付けてたご飯粒を取ってもらって、ぱくんちよされるとか!!

はっ、恥ずかしいいいいいいいいいいい!!

(うう……)

そんなこんなで、何だか色々ドッキドキした昼食のあと(正宗さんがいっぱい食べてくれたから、ちょっと作りすぎたかな? って思ったお弁当は綺麗に完食と相成りました!)、コンビニで買ってきたベトナムのお茶とお団子だんごでまったり。(お花見といったら、やっぱり団子でしょ団子!)

ああ、風が気持ち良いなあ。

八重桜、綺麗だなあ。それに周りの木々の緑も綺麗。

もうすぐ五月。新緑の季節だねえ。

空は青くて、雲は白くて。

なんかそれだけで幸せだなあ……

「……んん」

あ……駄目だ……

昨日あんまり眠れなくて、今朝も早かったから、今頃睡魔……が。
お腹が良い感じに膨れて、日の光もぼかぼか暖かくて……

「……ふあ」

私は、ぐっすりと寝入ってしまったのでした。

* * *

千鶴さんが早起きして作ってくれたお弁当はどれも美味しくて、ついつい食べすぎてしまった。

食後はコンビニで買った緑茶と、「お花見といったら、やっぱりこれですよ！」と千鶴さんがコンビニで買った団子でホッと一息。

確かに、この桜を眺めながら食べる団子はオツですね。

「……ん？」

二人で言葉もなく、ただぼうつと桜に見入っていたら、ふいに肩に重みを感じた。
千鶴さん？ と横を見れば、どうやら彼女は眠ってしまったらしい。

しかし、俺の肩にもたれかかっている体勢は不安定で、今にも倒れてしまいそうだ。
「……………」

俺は彼女を起こさないよう、そっとその身体を横たえる。

小さな頭は、俺の膝の上へ。

「……………」

千鶴さんが起きなかったことにひと安心して、彼女の寝顔を見つめる。

膝の上を感じる、わずかな重みが心地良い。

安心しきったような顔で眠る、俺の奥さん。

「……いつもご苦労さまです」

彼女の存在が、どれだけ俺を支えてくれているか。

胸に湧き上がる幸福感のままに、俺はそっと、千鶴さんの髪に触れた。

彼女の髪は細くて、ふわふわしていて、とても気持ち良かった。

* * *

……なんだろう……。あつたかくて、気持ち良い。
それに、良い匂いがする。

頭を撫でられているような、くすぐったい感触。
 ずっと、こうしていたいな……

「……ん……」

私はゆっくりと重い臉を上げた。

「……………あ……………」

目の前には、正宗さんの端整なお顔。

あ、あれ……？ な、なんで……？

寝起きでよく回らない頭で状況を整理すると、わ、私……!!

まっ、正宗さんにひっつ、膝枕されてるよおおおおおおお！！

おっ、おまけに頭っ！

頭なでなでされてるとか、なんとというへブン!!

「……お目覚めですか？」

「すっ、すみませっ……………!!」

慌てて起き上がろうとする私。だって、だっつと膝枕とか辛いからですか!?

「気にしないで、ゆっくり休んで下さい。お弁当作るのが、大変だったでしょう？」

「正宗さんはやりわりと、でも有無を言わさぬ態度で私の頭を自分の膝の上へ押し戻す。そして寝かしつけるようにポンポンと、頭を撫でてくれる。」

いつ、いやあのお、お弁当作るのが大変なのは、私の料理スキルが低いから!!
 おまけに寝不足なのも、楽しみで寝付けなかったという「お前小学生か!」ってツツ
 コミたくなるような理由で!!

だからあのっ！ 私よりむしろここまで長時間運転された正宗さんの方がお疲れ
 で……………!!

ここは本来なら私が!! あつかましいかもしれませんが、私が膝を献上して正宗さん
 にお昼寝していただくべき場面ですよね、ごめんなさああああいいいい!!

「まっ、正宗さんは足、辛くないですか……………」

今、正宗さんはゆるく胡坐をかいていて、その膝に私の頭が乗っているわけなんです
 が、ずっと同じ体勢って辛いよね!?

「大丈夫です。時間はまだあるので、もうひと眠りしても大丈夫ですよ?」

いつ、いやいやいやいや!!

正宗さんの膝枕とかっ!!

ドッ、ドキドキしすぎてもう眠れませええええええん!!

うう……………。まさか正宗さんのお隣でガチで寝入ってしまうとは……………!

一生の不覚!!

も、もちろんあのあとは正宗さんのお膝の上でグースカ眠れるわけがなく、帰りの車の中でもちゃんと起きてましたよ。

長時間運転して下さってる正宗さんの隣でグースカとか！ できないですよ！！
ま、まあそれができたのも、あの時正宗さんのお膝で何も知らずに仮眠をとったおかげです。ハイ。

あの時変な顔してなかったよね？ 寝言とか言っていないよね!?

はっ！ よだれ!! よだれ垂らしたらどうしよう!?

「ううううう」

「……千鶴さん?」

思わず口に出して唸^{うな}ってたよ、やばいやばい!!

「あっ、えっと。大丈夫です。あっ、正宗さんお菓子食べますか?」

私は慌てて膝の上に置いていたお菓子をすすめる。

コンビニで買っておいたスナック菓子だ。

「はい」

と言っても、正宗さんは運転中でハンドルから手が離せないの、私がお菓子を摘まんで……

まっ、正宗さんのお口に運ばせていただきます!

「んっ」

ひああああああああああああ!! 指がっ、指が唇に!!

正宗さんの唇、ちよつと薄くてセクシー……てえ!! 何考えてんだ馬鹿野郎!!

「もう一つ、くれますか?」

「はっ、はひ……ッ」

そうして私は正宗さんのお口にお菓子を運んだり、ペットボトルの蓋^{ふた}を開けて手渡したり。

今日は楽しかったですなえ、とか、桜綺麗でしたなえ、とか言いながら、心臓ぱくぱくドッキドキなドライブデートの時間を過ごしたのでした。

そして無事帰宅。

夕飯はサービスエリアで済ませた。最近のサービスエリアはレストランも充実してるよね。美味^{おい}しかった。そこにしかないご当地グルメもあったりして、楽しかったなあ。

帰宅後、お風呂に入ってようやく^{ひとこし}心地。

やっぱり長時間車に乗っていると身体バキバキするなあ……

正宗さんも長時間の運転は大変だったようで、ちよつと疲れているご様子。

ここは一つ、マッサージでも……!!

肩揉ミマシヨカー!! 腰揉ミマシヨカー!! (何故カタコト!)

「……千鶴さん」

「はいっ!」

寝室のベッドの上に座っている正宗さんに呼ばれて、私は元気良く返事をして傍に寄る。

「なんですか? マッサージご希望ですか!? 準備はできてますよ!

「……………」

「正宗さんは無言で、ぼすぼすと自分の隣を叩いている。

そこに座れたことですね!

「……………えっ」

言われた通りにベッドに座った私の膝に、ぼすんとしかかる重み。

こっ、こりは……っ!

膝枕!!

「……すみません。しばらく、このままで……」

「正宗さんはそう言って、目を閉じる。

ひああああああ!!

初! 膝枕!!

今日は初めて膝枕してもらったりしたり、してあげたり……何ですか! 膝枕の日ですか!!

でも、あの。なんかその……

甘えてくれているようで、気を許してもらっているようで……

こそばゆいけど、嬉しいものですね、膝枕って。

私はドキドキしながら、正宗さんがしてくれたように彼の頭を撫でる。

うわっ。髪、サラサラ……ッ。

同じシャンプー使ってるのに、どうしてこんなに違うんだろう。

綺麗な髪だなあ。指通りが良くて、気持ち良い……

「……………ははっ」

「?」

「正宗さんが小さく笑ったかと思うと、閉じていた目を開けて、私を見上げる。

「どきん、と胸が脈打った。」

「なんだか新鮮ですね。こうやって……」

そして寝巻である浴衣の袖から手が伸びて、私の頬にびたりと触れる。

「下から、千鶴さんを見るのは」

「っっ!! やっ、なんか恥ずかしいです……」

あんま見ないでええええええ!!

正宗さんのお顔は美しいですけれども!! イケメンフェイスですけれども!!
下から仰ぎ見たら私、へちやむくれじゃないですかねえええ!!

「……もう少し……このままで……」

正宗さんは微笑を浮かべてそう言うのと、すうっと寝入ってしまった。
やっぱり、疲れてるんですね。

久しぶりの運転でしたもんね。安全運転、お疲れさまでした。

「ありがとうございます。正宗さん」

私は正宗さんの眼鏡を外して、小さく囁く。

綺麗な桜を見せてくれて。

ドライブに連れて行ってくれて。

(本当に、ありがとうございます……!)

私は夜中になって正宗さんが目を覚ますまで、膝枕を続けた。

正宗さんは起き抜けに「すみません!」って言うってくれたけれど、たとえ足が痺れたって、私は……

正宗さんに膝枕してあげられることが、照れくさいけど嬉しくって。

幸せってやつとか、らぶってやつを感じるの、またやりたいなあとか、凶々しくも
またやつてもらいたいなあとか……

お、思うのです!!

黄金週間、懐かしのフルーツパフェと

五月の大型連休。世に言う、ゴールデンウィーク。

私立高校の教師である正宗さんも、カレンダー通りにお休みをもらえた。ちなみに正宗さんは運動部の顧問じゃないから、部活で休日に出勤することはないんだって。

家に持ち帰ってきた仕事もあるみたいだけど、それでもお休みはお休みだ。

どこかへ旅行に行きましようか、とも言ってくれたけど、毎年テレビで流れている高速道路の渋滞や満員御礼の新幹線の映像が頭を過って、首を横に振った。

せっかくだけど、正宗さんは日頃お仕事で忙しいんだし……

連休は家でのんびりまったりしましよう、ということになりました。

あ、でもうちの実家には行きましたよ。うちの両親は娘ではなく、正宗さんの訪れを待ち望んでいたけどね……！ 実の娘そっちのりで、もう正宗さんに構う構う。

父は囲碁の相手してもらってご満悦だし、母はここぞとばかりに気合を入れてごちそうを作って正宗さんを（娘夫婦ではない！ 娘婿だけ！）もてなした。

私がたまに実家に顔を出しても、「あんた一人なの？」とか、「早く帰りなさいよ」と

か言ってくる。娘より婿が可愛いんだもんね！（拗ねてないですよ別に）

嫌な顔一つせず父の囲碁に付き合い（家族は他に誰も碁が打てないから）、母の料理を「美味いんです」といっぱい食べてくれた正宗さん。

そんな娘婿に二人は、「本当にうちの娘にはもったいない……」と呟くのだ。

私が一番わかっとなるわ!!

私には過ぎた旦那様だったことぐらいね!!

そして調子に乗った両親が正宗さんにとんだ日本酒やらビールやらをすすめたばかりに、日帰りのはずが一泊していくことになってしまった。もー！

そういうえば、連休で帰省していた弟の雲雀は、何故かおすつとしてたなあ……うむむ……。久しぶりの帰省で俺が主役！ のはずだったところを（それまでは雲雀

が帰省する度に、母が雲雀の好物を作ってあげていた）、今回は正宗さんに持っていかれちゃったからかな？ 両親とも「正宗くん正宗くん」ってうるさいくらいだったもん。実の子はそっちのけで……

まあそんなこんなで実家に一泊し、お昼ごはんをいただいでから、もう一泊していいじゃないと言う両親の誘いを振り切って、私達は家に帰った。

今日はね、正宗さんと一緒に買い物に行くんだよ。楽しみ！

久しぶりに二人でショッピングできるってことで、私のテンションは上がっているのだ。

日頃、食料品とか日用品は一人で買いに行くことが多いからな。

目的の地は最近話題のアウトレットとか人気のショッピングモールとかじゃなくて、昔っからある近場のデパートだけだ。

子どもの頃、両親に手を引かれてこのデパートに行くのがすごく楽しみだった。いつもより少しだけおめかしして、玩具を買ってもらって。

帰りにパーラーで食べたフルーツパフェ、美味しかったな。

「ゴールデンウィークということもあって、デパートはすごい混みようだった。はぐれないようにって、繋がれた手に熱がこもる。

ああああああ！ やっぱりいつまでたっても慣れないよう……

汗！ 汗が気になる！ ベとベとしてやしないかと！

ううう、もっと冷房効かしてガンガンに！ と、節電ブームに反したことをつい思っってしまう。世の女子達は手汗対策、どうしてるんだらうか……

そんなことを考えつつも、私達は人の波を掻き分けながら、雑貨や服を見て回った。ファッション売り場はすっかり夏を先取りしていて、私達は正宗さんのお仕事用のワ

イシャツやネクタイ、それからサマースーツを買う。クールビズ、大事ですよ！

正宗さんに似合いそうなスーツを何着か試着してもらって、その度には「黒髪眼鏡にスーツ！」と心の中で叫びまくった。テンションは急上昇してしまって、ハアハアするのを必死に堪えました。

スーツ男子とかっ……大好物です!! もうかっこよすぎです正宗さん……!!

高校教師っていうのも萌えますが、正宗さんのそのスーツ姿ならば会社員もいける！それで職場の後輩（受）と夜のオフイスで……ってオイ!! 自重!! 妄想自重!!

そして正宗さんが私にも、って夏用のワンピースを買ってくれました!

それはマネキンが着ていた、シャーベットカラーの涼しげなワンピース。

可愛いなって目を留めたら、正宗さんが「千鶴さんに似合いそうですね」って言うってくれた。

いやいやいやいや！ って必死に手を振っていると、タイミンクよく近付いてきた店員さんに「御試着いかがですか？」って言われて、あれよあれよという間に試着することに。

ああやっぱりこれ可愛いなって思いながら（中身じゃなくて服ね、服!）、試着室のカーテンを開けると、その場で待っててくれた正宗さんにも「似合います」と太鼓判を押していただいて、そして購入……ということになったんだ。

ああああなんか申し訳ない……！　　こういう時、やっぱりバイトとかパートとかかして自分の小遣いくらいは自分で稼ごうかな……と思う。

それに、私も正宗さんにその……何かプレゼントしたい……と、思うし。

プレゼントは正宗さんが稼いだお金じゃなくて、自分で手に入れたお金で贈りたい。

真剣に何か仕事を探してみようかな。短期とか単発とか短時間とか。家事に影響しない範囲のもので。

「……千鶴さん？」

「ほあつ！　あ、すみません、ちょっとぼーつとしてました……」

求人誌を入手するところから、履歴書に何を書くかまで想像が膨らんでいました。

「人が多くて、暑いくらいですからね。ちょっと休憩しましょうか」

そして私達は、デパートのレストラン街にあるパーラーに入ることにした。

（ここ……！　昔来たまんまだ！　まだ残ってたんだなあ……）

子どもの頃、家族で来たパーラーがそのまま残っていた。

懐かしいなあと思いつつ、席に着いてメニューを見る。

ここはやつぱり、懐かしのフルーツパフェでしょ！

ああああ！　でもでもこのミルクケーキも気になる……

あああ、こっちのホットケーキも美味しそう……

「うううん……」

「……何と何で、悩んでいます？」

メニューをじっと見つめていたら、正宗さんが私の迷いを見透かしたかのように声をかけてくる。

はっとして顔を上げると、彼は慈愛に満ちた表情で私を見ていた。

うううう恥ずかしい！　コイツいつも食べ物のことで迷ってるよ、どんだけ食い意地張ってんだよって思われてるよ絶対!!　すすすすみませええええんん!!

「え……ええと、フルーツパフェと、ホットケーキと、ミルクケーキ、で迷ってます」

私はメニューの写真をひよひよいと指差す。

ホットケーキは家でも焼けるけど、お店のやつのように綺麗にふくらしないんだよね。

でも懐かしのフルーツパフェも捨てがたいし、ミルクケーキも……飲みたい！

「それじゃあ、全部頼みましょうか」

「えっ!？」

「食べきれないなら、俺も手伝いますから」

ま、正宗さああああん!!

嬉しい！　嬉しい！……けど……っつ。

ど、どんだけ私を甘やかすんですかああああああ!!

フルーツパフェもホットケーキも、もちろんミルクケーキも。大変……っ、大変美味しゅうございましたっ!!

ガラスの器に綺麗に盛られた、季節のフルーツや生クリーム、バニラアイス。フルーツと生クリームを一緒に口の中に運べば、ほわりと甘くてほんのり酸っぱくて、とっても懐かしい味がする。

そして溶けたバニラアイスが浸みたコーンフレーク！ 好き!

ホットケーキも焼き立ての生地にしたっぷりのバターと蜂蜜がかかっている、ほっぺたが落ちそうなくらい美味しかった!

合間合間に飲むミルクケーキは、つめたーく冷やされ、さっぱりとしていて美味しい。このお店のはちょっと甘さ控えめで、それがまた良い。甘い物を食べながらだから、なおさら。

正宗さんも、ブラックコーヒーをお供にパフェとホットケーキを食べるのを手伝ってくれた。

そして、ミルクケーキを一口飲んで、「意外に甘くないんですね。美味しいです」と言う。

正宗さんは、もっとう……練乳みたいな味を想像していたらしい。思わず笑ってしまった。れ、練乳って……

甘味で疲れを癒した私達は、最後にデパ地下に寄っていくことにした。

デパ地下大好き! 下手したらめっちゃ買いまくってしまう。食意地の張った私にとっては天国のような(財布にとっては地獄のような)場所だ。

だけど今はお腹が満たされているからね、そんなに散財はしない……はず!

……はず!!

……だったんだけど……

結局気になるお惣菜やらスイーツやらをあれこれ買い込んでしまいました。

だって美味しそうなんだから! そして試食したらやっぱり美味しいんだもん! それにそうしょっちゅう来れる場所でもないし。

買すぎちゃったけど、今日の夕飯で全部食べられるかな……? :

あ。それから、和菓子屋さんで柏餅かしわもちを四つ買っちゃった。

(やっぱりこの季節は柏餅だよね……)

二人で両手にいっぱい荷物を持って、家に帰る。

駅から家までの道のりでぼつぼつと目に入るのは、あちこちの家で飾られた鯉のぼり

が気持ち良さそうに空を泳ぐ姿。うーん、五月だねえ……

あ！　そういえば今日って、こどもの日だった！

この間、ご近所に住む小学生の宗憲くんが、「千鶴ちゃん見て見て！」って手を引く張って、おうちに飾ってある兜飾りを見せてくれたっけな……

お祖父ちゃんが買ってくれたって、嬉しそうにしてたっけ。
可愛かったなあ……。兜飾りじゃなくて、得意気な宗憲くんが。嬉しくってしようがないんだろうな。

それにしても、最近はいろんな戦国武将のモデルのものが兜飾りになっていて、戦国武将好きな私にとってはキャッホイですよ。なんか無駄に滾る。

独身の頃は、兜飾りが出回る時期に、買い物ついでに用もないのに、デパートの催事場に見に行っていましたよ。

そして、友達と戦国武将のカップリングで熱いトークを練り広げたもんだ。

ちなみに宗憲くんの兜飾りは、徳川家康（とくがわいえやす）のものを再現した逸品だった。

（……もし）

もし、私達の間にも男の子……が生まれたとしたら……

そしてもし、兜飾りを買うことになったら……

その時にはぜひ伊達政宗（いだてまさむね）の兜飾りにしようと、今からほくそ笑む私。

「千鶴さん？」

「ほえっ!?　あ、す、すみませんぼうつとして……。鯉のぼり、見ました……」

危ない危ない！　ちよつと思考がトリップしてた！

男の子だったら……。なんて。気が早いだろ自分！

「ああ……」

「五月の風物詩ですよ。鯉のぼりに兜飾り。……。そういえば子どもの頃、鯉のぼりが欲しくって欲しくって、親にねだったことがあったんです」

雛祭り（ひなまつり）に祝ってもらってるくせに、五月に入ると今度は近所の男の子の鯉のぼりが羨ましくなって（ちなみに弟の雲雀は五月人形は金太郎さんを買ってもらっていた）、よく親に「私も鯉のぼりほしい！」と駄々（だだ）をこねてたっけ。

あれだ。ないものねだり、ってやつ。

「……その度に、『これで我慢しろ』って、小さい玩具（おもちゃ）の鯉のぼりを与えられてました」
スーパーで売ってるような、風車（かざぐるま）がついてるやつ。

ぶすくれながら、ふーふー風車に息を吹きかけて回してたっけ。

「……ははっ」

「あ、笑いましたね！」

「いや、可愛いなあと、思って……」

「んうえ!」

か、可愛い!!!

い、いやいやいやいや! 駄々こねて、拗ねてぶすくれているただのガキの話ですよ!? 今思うと我儘だったなって思いますよ。鯉のぼりとか実際にもらっても困るでしょ! って。

「……もし俺達の間にも男の子が生まれたら、鯉のぼり、買いますよか」

「……っ」

さ、さっきの私と同じこと、考えてる。男の子が生まれたら、って。

正宗さんは、鯉のぼりを見上げています。

そして、「庭にもまだ余裕がありますし」と呟く。

確かにうちの庭なら、鯉のぼりも設置できますね。

鯉のぼり……か。

そ、それも大変魅力的なご提案なのですが……っ。

「か、兜飾りが良いと思います……っ!」

伊達政宗公モデルの!!

一番好きなんだ伊達モデルの兜が!!

それに鯉のぼりより飾るのも楽です!!

きつとジジババ(うちの両親)が、嬉々として買ってくれるんだろうな。

「はい。……毎年、祝ってあげましょうね」

「ふあ、ふあい……」

男の子なら兜飾りを飾って柏餅を食べて、女の子なら、雛祭りの日に雛人形を見ながら雛あられを食べよう。

家族みんなで子どもの健やかな成長を願う。

そんな日が来るのは、そう遠くない未来だといいな……なんて、春の空に思った、五月のお話。

ぎりぎりの境界線

たまーに。

たまーに、ではあるが。

夜、正宗さんのお背中を流すことがある。い、一緒にお風呂……とかはまだ！ まだ恥ずかしくてできないけど……

って!! こ、これじゃまるでいつかは一緒に……って思ってるみたいじゃないか!! と、とにかくだねっ。

日頃の感謝の気持ちを込めて、旦那様のお背中を……ごしごしするのですよ。

雨の日が多くなってきた、六月のある夜。

夕飯の後片付けを終えた私は、そろそろかな……とエプロンを外してお風呂場に向かった。

正宗さん、今日はちょっとお疲れのようだったから、久しぶりにお背中お流しますよ！ そしてお風呂上がりに肩をお揉みますよ！ って決めていたのだ。

これも、つ、妻の務めです。(なんか照れる……)

「正宗さん、入っても大丈夫ですかー？」

「はい」

了承の返事をいただいて、私は脱衣所で服の袖と裾すそを捲まって浴室に入る。

あ、ちなみに裸もしくはタオル一枚のセクスイースタイルでお背中を流すなんて度胸はないです。そんなの無理だからー!!

「失礼します」

と浴室の扉を開ければ、正宗さんがバスチェアに座って身体を洗っているところだった。

おお。ナイスタイミング自分！

正宗さんが自分のお膝にタオルを掛けてくれているのは、私に対する配慮……かな。

その……、まだ明るい所で正宗さんのアレを直視する勇氣はないのです！ ありがとうございます!!

「正宗さん、お背中お流ししますね」

「お願いします」

正宗さんからポディタオルを受け取って、それにさらにポディソープをぶちゅーっとかけ足して(泡々の方が好きなんです)、お背中を……ごしごしする。

